

「平成 21 年度温泉排水処理技術開発普及等調査」対象技術応募票  
 ー記入例ー

※応募票は、実証試験 1 ケース毎に作成すること。1 ケースの実証試験とは、1 つの技術を用いて 1 つの現場で実証試験を行うことをいう。

例 1：1 技術を 2 箇所の現場に適用する場合 → 2 ケースの実証試験

例 2：3 技術を 1 箇所の現場に適用する場合 → 3 ケースの実証試験

技術の名称：〇〇による温泉排水処理技術

想定する実証試験現場（〇をつけて下さい）：

A 旅館

B 旅館

C 旅館

応募者の状況	<機関名（共同機関名）> （株）〇〇 （共同研究機関：△△県環境衛生研究所）
	<担当者名（所属、役職）> 〇〇 〇〇 （△△部 ××担当技師）
	<連絡先> 住所：・・・・・・・・ TEL：・・・・・・・・ FAX：・・・・・・・・
技術の概要	<原理・技術フロー> 温泉排水中のほう素（又はふっ素）を除去する技術である。ほう素（又はふっ素）除去を行う場合には前処理として〇〇による処理を行い、共存物質の除去を行う。その後、△△により××を行い、ほう素（又はふっ素）を除去する方法である。技術フローについては別添の図参照
	<開発状況・実績> これまで、実験室でのカラム実験、実証サイトでの実証実験により・・・・の知見が把握されており、既に実用化段階にある技術。 カラム実験においては、・・・・の条件で・・・・の処理効果が確認されている。 〇〇実証サイトでの実証実験では、・・・・の知見が得られた。
	<ライセンス関係等> 〇〇技術として特許を出願中。

技術の特徴	<p>&lt;有効性（ほう素、ふっ素の除去効果）&gt;          本技術は、室内実験において、○○が最大△mg/Lの排水に対して、×mg/Lまで低減化が可能である。</p>
	<p>&lt;経済性（実際に処理施設を導入・運用した際のイニシャル及びランニングコスト、消費エネルギー等）&gt;          イニシャルコスト：○円          ランニングコスト：・・・経費として△円/月。・・・経費として×円/月          消費エネルギー：▽▽kWh/月程度の電力を必要とする。          イニシャルコスト低減化の方向性：現状は○円であるが、受注台数が増加することにより、●円にまでコスト低下の期待ができる。</p>
	<p>&lt;周辺への環境影響・安全性（添加剤・廃棄物の有無、騒音等）&gt;          添加物××を投入し、沈殿処理を行うことにより、沈殿汚泥が発生する。この汚泥を濃縮し・・・とする。          処理装置の稼動時は△dB程度の騒音が発生するため、・・・に留意が必要である。</p>
	<p>&lt;制約条件・課題等&gt;          ××の条件では困難だが、今後・・・を改善することにより処理効果を向上させる必要がある。</p>
	<p>&lt;想定する1ケースの実証試験規模等（請負契約額5,000千円の場合を想定すること）&gt;          ・実証試験期間：機材搬入●日、実証試験●日、機材撤去●日          ・必要人員：機材搬入●人/日、実証試験●人/日、機材撤去●人/日          ・必要設置スペース：最大●m<sup>2</sup>          ・処理水量：●m<sup>3</sup>/h（又は●m<sup>3</sup>/日）          ※想定する実証試験規模の場合の公募要領7.(2)に示す環境省負担分の経費内訳書を添付すること。</p>
備考	

※ この応募票は審査に必要な資料となります。必要に応じて枠を引き延ばすことや別紙を添付することは差し支えありません。